Safe Community KORIYAMA

セーフコミュニティ郡山

郡山市は、より一層の安全と安心につつまれたまちづくりを加速させるため、
WHO（世界保健機関）地域安全推進協働センターが進める
「セーフコミュニティ」の認証取得を目指します。

郡山市セーフコミュニティ取組宣言

郡山市では、1971年の「世界連邦平和都市宣言」をはじめとして、「郡山市核兵器廃絶都市宣言（1984年）」や「暴力追放都市宣言（1988年）」、「新交通安全都市宣言（1994年）」など、安全・安心に関する取り組みを進めてまいりました。しかしながら、近年では、集中豪雨による被害や高齢者・子どもが巻き込まれる交通事故・犯罪などが多発しており、さらなる取り組みの強化が求められています。

また、2011年3月の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故は、本市に甚大な被害をもたらしました。そのため本市では、安全・安心を基盤とした産業の振興や定住化の促進のほか、再生可能エネルギーや医療機器開発に関する国際的な研究機関の設置を契機とした国内外との交流の拡大などにより、震災等からの復興を加速させていく必要があります。

さらに、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにおいて、被災地として世界の皆さまへの感謝の意を込めて大会の成功に貢献するとともに、2025年の超高齢社会に備えるため、健康長寿に向けた取り組みも進めていかなければなりません。

こうした中、WHO（世界保健機関）地域安全推進協働センターが提唱する「セーフコミュニティ」への取り組みは、安全・安心に関わるさまざまな分野の垣根を越え、幅広い組織の協働・連携のもとで進められるものであり、「けがや事故等」の発生原因を究明しながら効果的に予防することで、震災等からの復興を成し遂げる原動力になると考えています。

世界から注目される「福島」、その中核を担う郡山市が、国際基準の安全・安心に取り組み、一日も早い復興を目指すことが、世界の皆さまへの恩返しになると考え、市民総参加によりセーフコミュニティに取り組むことを、ここに宣言します。

平成26年11月4日

郡山市長　品　川　萬　里

セーフコミュニティの概要

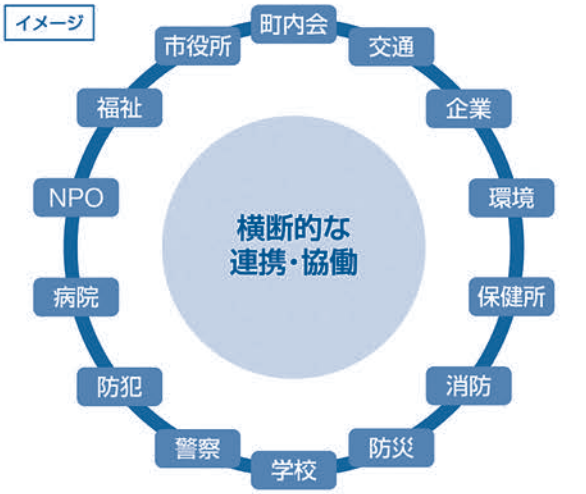
セーフコミュニティとは、WHO（世界保健機関）地域安全推進協働センターの認証制度であり、「生活の安心と安全を脅かすけがや事故は、原因を究明することで予防することができる」という理念のもと、地域の実情をデータを用いて客観的に評価し、地域住民、地域の団体・組織、関係機関、行政などが力をあわせて「安心して生活できる安全なまちづくり」に取組む活動を行っている地域のことをいいます。

〔歴史・経緯〕

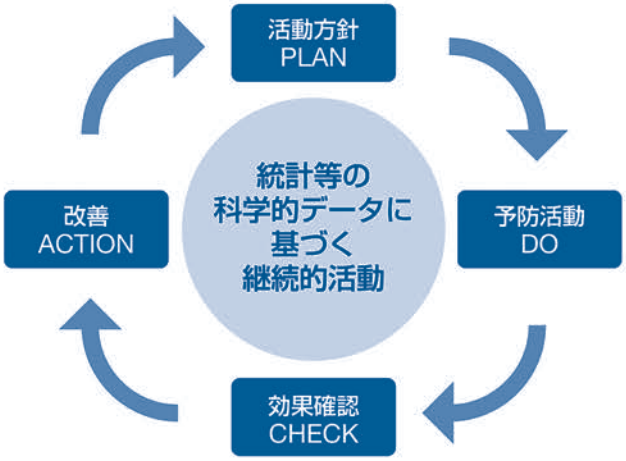
1989年9月にスウェーデンのストックホルムで開催された、「第1回事故・傷害予防に関する世界会議」において、「セーフコミュニティ」の概念が宣言されました。

★日本では、9都市が認証を取得済みで、6都市が認証取得を目指しています。（H26年12月現在）

★世界では、346都市がセーフコミュニティ認証を取得済みです。（H26年12月現在）



住民、団体、行政が連携・協働して安全で安心なまちづくりに向けて、改善を加えながら活動を継続する。



セーフコミュニティでは、PDCAサイクルを活用し、科学的な根拠に基づく分析により予防活動に取組む。

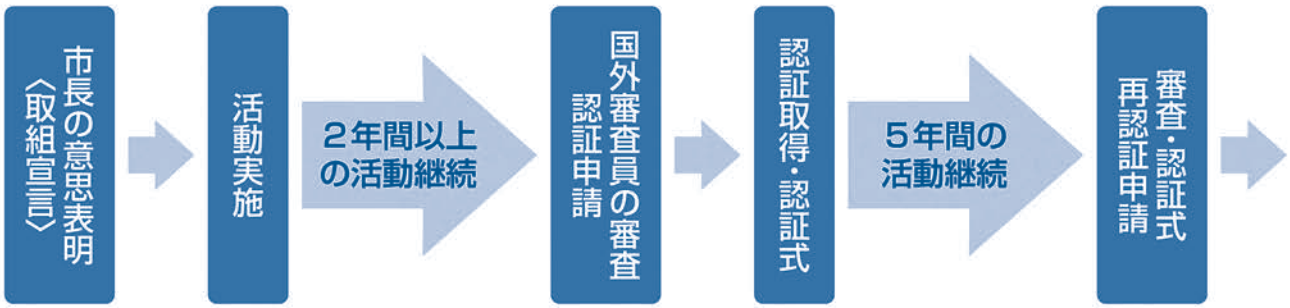
期待される効果

（1）けがや事故の減少により、市民の誰もが希求する「安全・安心」が向上する。

（2）安全・安心への取組みを通じて、地域住民、関係機関、各種団体と行政が協働することにより、情報や連帯意識を共有できる。

（3）国際基準による安全・安心の取組みを行う自治体として地域イメージが向上する。

認証取得までの流れ



H26年11月4日　　目標　H29年度

郡山市のけがや事故の現状

年齢別にみた郡山市民の不慮の事故等による死亡原因

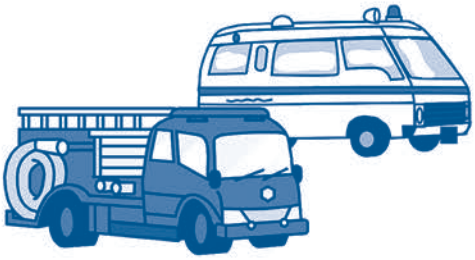
不慮の事故等における年齢層別死因順位（人口動態統計 H21～24年の4年間の累計）

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	窒　息(3)	交通事故(1) 転倒・転落(1)			
10～19歳	自　殺(5)	交通事故(3)	煙・火・火災(1)		
20～29歳	自　殺(45)	交通事故(6)	溺死・溺水(2)	窒　息(1) 中毒等(1)	
30～39歳	自　殺(45)	交通事故(6)	煙・火・火災(2)	転倒・転落(1) 中毒等(1)	
40～49歳	自　殺(51)	交通事故(9)	窒　息(3) 中毒等(3)	溺死・溺水(2) 煙・火他(2)	転倒・転落(1)
50～59歳	自　殺(70)	交通事故(10)	溺死・溺水(5)	窒　息(4)	煙・火・火災(3)
60～69歳	自　殺(49)	交通事故(11)	窒　息(9)	転倒・転落(7)	溺死・溺水(4) 煙・火・火災(4)
70～79歳	自　殺(29)	窒　息(23)	交通事故(21)	溺死・溺水(17)	転倒・転落(7)
80～89歳	窒　息(47)	自　殺(19)	溺死・溺水(16)	転倒・転落(15)	交通事故(13)
90歳～	窒　息(26)	転倒・転落(10)	溺死・溺水(6)	自　殺(3) 交通事故(3)	
全　体	自　殺(316)	窒　息(116)	交通事故(83)	溺死・溺水(52)	転倒・転落(44)

（　）内の数字は人数

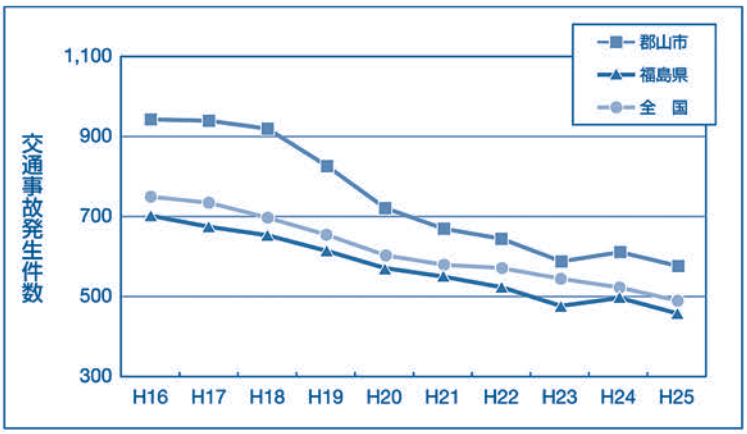
市内の不慮の事故等による死亡原因を年齢別に見ると、多くの年代で自殺が死因のトップとなっています。

また、79歳以下では、自殺、交通事故の順位が高くなっており、80歳以上では、窒息、転倒・転落、溺死・溺水などの順位が高くなっています。



郡山市内における交通事故発生状況

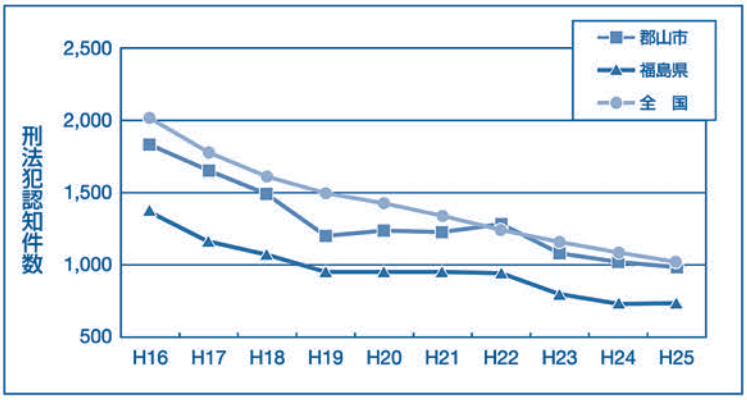
人口10万人当たり　交通事故発生件数（警察統計、H16～25年の10年間の推移）



市内の交通事故発生状況については、全国及び福島県と同様に減少傾向にありますが、全国及び福島県の件数よりも高い水準で推移しています。

郡山市内における犯罪発生状況

人口10万人当たり　刑法犯認知件数（警察統計、H16～25年の10年間の推移）



市内の犯罪の発生状況については、全国及び福島県と同様、全体的に減少傾向にあり、全国の件数よりも低くなっていますが、福島県の件数よりは高い水準で推移しています。

〈先進都市の取組事例〉

厚　木　市

1　まちの紹介

神奈川県の中央に位置し、東名高速道路厚木ICを中心として、交通の要衝に位置するという地理的な優位性や先人の皆様のたゆまぬ努力により、首都圏の流通業務を担う拠点都市として着実に成長してまいりました。豊かな自然に恵まれているとともに、多くの企業や大学のある「まち」です。

面積93.83㎢、人口225,166人

（平成26年10月1日現在）　特例市（平成14年4月）

将来都市像

「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市　あつぎ」

2　市長のプロフィール

小林　常良（こばやし　つねよし）

第５代厚木市長

日本大学卒業後、厚木市役所に入庁し、19年勤続。

その後、厚木市議会議員、神奈川県議会議員を経て

平成19年2月に厚木市長に就任。現在2期目。

3　セーフコミュニティ活動の取組み経過

平成20年　1月　　取組宣言

平成22年　6月　　現地審査

平成22年11月　　認証取得

4　特徴的なセーフコミュニティ活動の取組み

セーフコミュニティの理念の下、平成24年10月に国内で初となる「厚木市セーフコミュニティ推進条例」を制定し、セーフコミュニティの取組みの継続的な推進により、誰もが健康で安心して安全に暮らすことのできる良好な地域社会の実現を目指しています。

また、市全域においてセーフコミュニティ活動を推進するため、自治会など市内19地区を「安心・安全セーフコミュニティ推進地区」に指定し、地域の実情に応じたセーフコミュニティ活動を展開しています。

5　セーフコミュニティの魅力（自治体経営に活かせる点など）

セーフコミュニティの理念は、市民の皆様との協働による市民本位のまちづくりという点で、市全体で取組むべき課題の解決方針に合致しているものと認識しています。市民の皆様と協働してセーフコミュニティの取組みを推進することにより、地域の信頼と絆の強化や、地域の安全活動の活性化、市民生活の質の向上が図られ、安心安全なまちづくりに繋がるものと確信しています。

6　今後の抱負

平成27年の再認証に向けて、セーフコミュニティ活動を一層推進していきます。市民の皆様との協働によるセーフコミュニティの取組みを推進していくことにより、地域の信頼と絆の強化や、地域の安全活動の活性化、市民生活の質の向上を目指します。

豊　島　区

新区庁舎（平成27年5月オープン）

1　まちの紹介

豊島区は、面積が13.01㎢、人口27.4万人の日本で最も人口密度が高い都市です。

ソメイヨシノ発祥の地である駒込、おばあちゃんの原宿として有名な巣鴨、みどり豊かな住宅地である目白、マンガの聖地「トキワ荘」があった椎名町、池袋副都心の繁華街など、様々な顔を持っているまちです。

また、最近の池袋は、都内でも有数のアニメ産業集積地としてにぎわっています。

平成24年に「セーフコミュニティ国際認証」を取得したことは、安全・安心なまち、住みたいまちとしての評価を大きく高めることにつながりました。

そして平成27年、豊島区は新たな飛躍の年を迎えます。5月にオープンする新庁舎は、隈　研吾氏の設計です。年間345日、土日も開庁する区民サービスの拠点として、また、安全、文化、環境のシンボルとして、都市づくりの先導役を果たします。

また6月には、新庁舎を舞台として、東京・ニューヨーク・パリの3拠点を結ぶ「アートオリンピア2015」が開催されます。豊島区は、国家戦略特区として、世界に向けて文化を発信する『国際アート・カルチャー都市』を目指しています。

2　区長のプロフィール

高野　之夫（たかの　ゆきお）

昭和12年12月25日生	豊島区に生まれる
昭和58年5月～平成元年6月	豊島区議会議員
平成元年7月～平成11年3月	東京都議会議員
平成11年4月	豊島区長に就任、現在4期目

3　セーフコミュニティ活動の取組み経過

2012年11月28日	セーフコミュニティ認証取得（国内5番目）
同年　28～30日	第6回アジア地域セーフコミュニティ会議開催（箕輪町、小諸市と共催）

4　特徴的なセーフコミュニティ活動の取組み

小学校区を単位として設置している「区民ひろば」（地域住民が自主運営するコミュニティ施設）を「セーフコミュニティの拠点」として位置づけ、予防活動の情報、学習、相談等の機能を提供しています。

5　セーフコミュニティの魅力（自治体経営に活かせる点など）

「分野横断的な連携・協働」と「科学的手法の活用」は、行政組織における政策形成、評価、アカウンタビリティなどに直接活かすことが可能であり、人材育成においても活用したいと考えています。

6　今後の抱負

安全・安心に関する現状や課題について、上記の「区民ひろば」を単位として、情報を共有しながら、誰もが安全・安心なまちづくりに参加できる仕組みを強化していきたいと考えています。

久留米市

1 まちの紹介

福岡県南西部に位置し、九州一の大河･筑後川と耳納連山に育まれ、美しい自然と温暖な気候に恵まれた緑豊かなまちです。北部九州最大の農業生産都市であり、古くから交通の要衝であることから産業が栄え、都市の快適さと自然の安らぎの調和が取れた中核都市として発展してきました。

多くの医療機関が集積した「医療のまち」、世界のブリヂストン発祥の地として知られる「ものづくりの気風が漂うまち」、日本の近代洋画を代表する画家が生まれ育った「芸術文化が根付くまち」、多くの酒蔵や全国に名高いB級グルメなど「豊かな食文化のまち」と、多様な顔をもつ魅力あふれるまちです。

面積229.84㎢、人口306,240人（平成26年10月1日現在）
中核市（平成20年4月）

2 市長のプロフィール

楢原　利則（ならはら　としのり）
西南学院大学卒業後、久留米市役所に入庁。
その後、環境部長、総務部長、久留米市副市長を経て
平成22年2月に第19代久留米市長に就任。現在2期目。

3 セーフコミュニティ活動の取組み経過

平成23年 7月　取組宣言
平成25年 8月　現地審査
平成25年12月　認証取得

4 特徴的なセーフコミュニティ活動の取組み

小学校区を単位とした校区コミュニティ組織や各種団体との協働により、市民の身近な地域で交通安全や防犯、防災などといった安全安心活動が広がっています。また、地域の子育てサロンと学校、行政が連携・協働した命の大切さを学ぶ授業（児童虐待防止）や、郵便局や新聞販売店などの事業者や地域、行政が連携して高齢者の安全を見守る活動、多くの医療機関や関係団体、行政が協働で行う研修（自殺予防、DV防止）など、地域の特性を活かした取組みが広がっています。

5 セーフコミュニティの魅力（自治体経営に活かせる点など）

分野の垣根を越えた幅広い連携、客観的データの活用による事業評価といったセーフコミュニティ活動は、けがや事故等の減少を図ることはもちろん、その仕組みを活用し、多くの市民や団体と力を合わせて取組みを進めることで、地域社会の安全の質の向上のみならず、協働のまちづくりが活性化し、地域力の向上と再生、安心感の醸成につながります。

6 今後の抱負

市民との協働によるセーフコミュニティ活動を推進し、市民や幅広い分野の団体に、先進的な取組み事例の紹介や具体的な取組み支援を行うことで、全市的な取組みに広げ、市民生活の安全･安心の質を高めていきます。また、他の推進自治体と連携し、セーフコミュニティを広げることで、みんなが安全で安心して暮らせるまちづくりが更に広がっていくよう努めていきます。

豆知識

●創立者

Leif Svanström（レイフ・スヴァンストローム）氏
1943年：スウェーデン　スモーランド地方生まれ
1972年：医学の学位取得
1973年：研究学位（博士）取得
1980年：スウェーデン王立カロリンスカ医科大学で社会医学の教授に就任
現　　在：スウェーデン王立カロリンスカ医科大学　名誉教授〈傷害疫学・社会医学〉
　　WHO地域安全推進協働センター所長

エピソード：レイフ・スヴァンストローム氏は、学生時代から労働衛生学及び社会医学を研究し、1970年代からは地域レベルでの安全性向上に関する活動にかかわっていました。1982年には、車のチャイルドシートを導入し、今ではスウェーデンで着用が義務付けられるようになりました。

その後、2005年ごろに、相次いで彼に4人の孫が誕生し、泳ぐことが好きな孫たちが安全に遊ぶためのライフジャケットの発明や、火傷・転倒などから愛する孫たちを守るために、薪ストーブに囲いを設けるなど様々な工夫を行いました。

このように、彼は家庭レベルから地域、社会レベルでの安全性の向上を目指しています。安全な環境は、すべての家庭、すべての学校や組織が協力しなければ作り上げることはできないという信念のもと、今も大切なお孫さんのことを想い世界中のセーフコミュニティ活動を見守っています。

●セーフコミュニティに最初に取り組んだ国名と都市名

国　名：スウェーデン
都市名：ファールヒェーピング
人　口：約3万人
　　（1991 年に認証）

※最初に認証された国名と都市名

国　名：スウェーデン
都市名：リードヒェーピング
人　口：約4万人
　　（1989 年に認証）

●スウェーデンの特色ある取り組み

スウェーデンのコミュニティ（地方自治体）の規模は、首都のストックホルム以外は、人口3～5万人がほとんどであり、一律「コミューン」とよばれています。

北欧ならではの、「雪」、「湖」、「氷」に対する安全などが特徴的な取り組みです。

●セーフコミュニティについてのお問い合わせは

郡山市 市民部 市民安全課 セーフコミュニティ推進室
TEL:024-924-2151
〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号　FAX:024-921-1340
mail : siminanzen@city.koriyama.fukushima.jp